



小学校の授業

Q

## 学校教育の実態について



長谷川 清 議員

A

## 情報の共有・組織的な対応を図る

**質問一** いじめ、不登校、問題行動等の実態と対応、課題について。  
**二** 体力、学力の実態と対応、課題について。

**答弁一（教育委員長）** 本市の平成25年度におけるいじめの発件数は、小学校9件、中学校5件で、全て年度内に解消している。  
不登校の児童生徒数は、小学校13人、中学校35人。非行問題行動等における暴力行為の発件数は、小学校0件、中学校2件である。  
いじめは、各校のいじめ防止基本方針に基づき、全職員がどの学校でも、どの子どもでも起こり得るという共通認識のもと、アンケートの実施、道徳や学級活動、児童生徒会を巻き込んだ啓発活動などを通じて、いじめの未然防止に努めている。また、保護者との連

携を密に行い、いじめの早期発見、早期対応に取り組んでいる。  
いじめが事実と確認された場合は、いじめ対策委員会を中心に組織的に対応する。  
**二** 新体力テストの平成25年度調査における市と県の平均値を比較すると、小学校では半数以上の項目で県平均値を超えているが、中学校では15割程度の項目しか県平均値を超えていない。体力向上推進委員会で結果を分析し、改善のための取り組みを行っている。

A

## 生きがいがづくりに取り組んでいく

Q

## 高齢者に対する施策について

藤原 建志 議員



**質問一** 高齢者の生きがいがづくりに支援への取り組みは。  
**二** 高齢者の生活支援の充実に対する取り組みは。  
**三** 介護予防に対する取り組みは。  
**答弁一（市長）** 高齢者が生き生きと自立した生活を送るためにも生きがいがづくりは必要不可欠である。

る。高齢者の生きがいがづくりの一助として就労が挙げられる。市では、就労を通じた生きがいがづくりのため、鶴ヶ島市シルバー人材センターと連携し、高齢者がその経験や知識を生かし、適性や希望にあった就労機会の提供に努めている。

**二** 市では、市内3か所の地域包括支援センターにおいて日常生活に関わるさまざまな相談に応じている。その中で、それぞれのニーズを踏まえ、介護保険サービスをはじめ、市の高齢者福祉サービス、さらに鶴ヶ島市社会福祉協議会や民間の生活支援サービスの利用につなげている。  
**三** 元気な高齢者を対象に、公民館等を会場にしたストレッチ体操やリズム体操などを行う「はつらつ元気体操クラブ」を開催。また、要支援・要介護状態となるおそれのある高齢者を対象に、「こっこつ貯筋体操教室」や閉じこもり予防認知症予防等のための「ますます元気教室」を開催している。



シルバー人材センターの会員による花植え